

# 「無縁仏」案じ、県内で増加

# 後継ぎ不在

# 墓じまい

墓を守る後継ぎがいなかったり、遠方に移り住んで管理ができないうなどの理由で、ふるさとにある先祖代々の墓を撤去して居住地の近くに移す人が、石川県内で増えている。自分が亡くなった後に無縁仏となって荒廃するより、元気なうちに、やむなく「墓じまい」を選択し、新たな墓は建てずに管理や供養を寺院が行う「永代供養墓」に改葬するケースも目立つ。

「年を取るとなかなか足を運べなかったが、墓参りが楽になった」。金沢市に住む男性(66)は、父親の葬儀をきっかけに「墓じまい」を決断し、富山市の寺院にあった墓を自宅近くに移した。

遺骨を納めたのは、複数の骨つぼを一括して納める永代供養墓だ。故郷を離れて60年以上。「新たに墓を建てても墓を守る子どもがいない。永代供養墓なら自分が死んでも供養してもらえらる」と、生前予約も済ませた。

男性の墓を管理する真宗大谷派法向寺(金沢市小待町)によると、10年ほど前から墓じまいの相談が寄せられるようになった。

永代供養料は1人50万円からで、一家の墓を設ける費用の半以下。今年5月から骨つぼの

## 寺管理の墓へ改葬

大きさを従来の5分の1にし、のど仏のみを納めるプランを用意すると、3カ月で、これまでの1年分にあたる10件の申し込みがあった。同寺の僧侶、北方久美子さんは「費用より無縁となることに不安を感じる方が多い。親戚づきあひも希薄になり、今後必要は増える」とみる。

昨年、境内に永代供養墓を新設した真宗大谷派泉龍寺(金沢市大樋町)では、今年に入って8家族が能登にある先祖の墓を撤去し、金沢市内に改葬した。生活拠点の移転や金沢の医療福祉施設への入院などが理由で、半数は境内の墓地でなく永代供養墓を選んだ。

春田神静住職は「永代供養墓そのものは新しい習俗だが、散骨などと違い、先祖に手を合わせる心の文化は継承される」と話した。

高価な葬儀料でトラブル 墓を移設するには、役所に足を運び、法的な手続きをしなければならず、県内でも代行業者が出てきている。寺院境内に墓がある場合は、住職に相談し、改葬の承諾を得る必要がある。全国各地で終活セミナーを開く日本エンディングサポート協会の佐々木悦子理事長は「寺としては檀家がなく、死活問題。全国では高額の葬儀料を請求されるトラブルが増えている」と注意を呼び掛ける。

墓じまいは、永代使用料や墓地从り出して更地にする工事費などが掛かる。墓石を購入し、墓を建てる場合の1・5倍ほどになるといふ。それでも佐々木理事長は「毎年交通費などを考えれば10・20年で元が取れる。近くに墓があれば、お参りの回数も増えるので、思い切って近くに移すのも一つの方法だ」と話した。



## 祈願所に遺骨入り骨つぼ 白山

市「落とし物」届けへ 8月中旬、白山市鶴来清沢町の墓地祈願所で、遺骨の入った骨つぼが置き去りにされていたのが見つかった。骨つぼは8月、白山市から放置されていたと知られ、身元を示すものはなかった。市と祈願所を管理する寺院は遺失物法に基づき、県警に「落とし物」として届けることを検討しているが、持ち主が現れない可能性が大きい。関係者は「むやみに廃棄できない。誰が何のために置いていったの

# 供養の心 置き去り

か」と困惑気味だ。 8月17日夕、墓参りに訪れた男性が、墓地内にある真宗大谷派鶴来別院(白山市)の祈願所の入り口付近で、骨つぼ三つが放置されているのを見つけた。三つうち、茶色の骨つぼには遺骨が入っており、残りの二つは空だった。ほかに骨つぼを納める袋一つも見つかった。 県警によると、2008年6月、金沢市野田山墓地の墓前で遺骨入りの骨つぼが見つかり、金沢中警に落とし物として届けられたが、引き取り手は現れなかった。

清沢町